

2024年9月期決算説明会 質疑応答

2024年11月19日

富士製薬工業株式会社

東証プライム 4554



FujiPharma

質問		回答															
1	25.9期の女性医療領域、海外事業のご計画はいかがでしょうか。	<p>女性医療領域は前期比32億円増加、海外事業はほぼ横ばいの計画としております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(参考)</th> <th>2024年9月期</th> <th>2025年9月期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>女性</td> <td>203億円</td> <td>235億円</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>171億円</td> <td>189億円</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>42億円</td> <td>41億円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>44億円</td> <td>67億円</td> </tr> </tbody> </table>	(参考)	2024年9月期	2025年9月期	女性	203億円	235億円	急性期	171億円	189億円	海外	42億円	41億円	その他	44億円	67億円
(参考)	2024年9月期	2025年9月期															
女性	203億円	235億円															
急性期	171億円	189億円															
海外	42億円	41億円															
その他	44億円	67億円															
2	24.9期までは売上構成のセグメントとして、女性医療・急性期・海外・その他で構成されていますが、今後セグメント別の計画の開示方法を変更するのでしょうか。	<p>開示方法については検討中であり、11/26開催の新中期経営計画(25.9期～29.9期)でお示しいたします。</p>															
3	24.9期のバイオシミラーの売上高は17億6,100万円だと思いますが、このうちウステキヌマブの売上高は、何円になるでしょうか。	<p>24.9期のウステキヌマブBSの売上は75百万円でした。説明会資料22pの「バイオシミラー」の数値には含まれておらず、同資料21pの「その他事業」に含まれております。</p>															

質問	回答
<p>4 10月に承認申請されたバイオシミラー 2 品目の先行品の名称を教えてください。</p>	<p>10月に承認申請したバイオシミラー2品目の先行品の名称については非開示としております。</p>
<p>5 ウステキヌマブの浸透度は、中期的にどれほどを予想していますか。</p>	<p>現状についてはウステキヌマブの先行品の適応症は、尋常性乾癬、乾癬性関節炎と皮膚科領域、クローン病、潰瘍性大腸炎の消化器領域を有しておりますが当社のウステキヌマブは、皮膚科領域の尋常性乾癬、乾癬性関節炎の適応をもって上市をさせていただきました。先行品の処方状況は、皮膚科領域では約10%と小さいため、現在は限定的な領域での活動にとどまっております。一方で、消化器領域では90%と幅広く使用されているため数年後に消化器領域での適応取得できた際には売上貢献が大きくなります。そのため適応追加後に売上貢献ができる状態を目指し、各病院でのバイオシミラー後続1の採用活動に専念しております。</p>

	質問	回答
6	<p>社会保障審議会のバイオシミラーに対する数値目標は定量的に御社にどの程度プラス効果があるでしょうか。</p>	<p>政府より数値目標が示されたことは追い風であると考えられる一方で、参入メーカーが増える可能性等の様々な要素も考慮しながら、このバイオシミラー事業の成功に向けて手を打ってまいります。</p> <p>また、前中期経営計画策定時に掲げました29.9期のバイオシミラー事業での150億円につきましては、現段階で修正等は行う予定はございません。</p>
7	<p>医療上の必要性がないにもかかわらず先発医薬品を希望した場合に、その差額の4分の1が患者負担となる後発医薬品のある先発医薬品（長期収載品）の選定療養が24年10月からスタートしましたが、その影響を教えてください。</p>	<p>当社は長期収載品含む先発品を約20品目を有しておりますが、後発品が存在する先発品はルナベル配合錠のみとなっております。</p> <p>ルナベル配合錠は上市されてから15年以上が経過しており、すでに後発品も上市、浸透しております。</p> <p>また現在のルナベル配合錠の販売額というのは決して大きくないことから、長期収載品の選定療養による当社への影響は極めて軽微と考えております。</p>
8	<p>後発医薬品のある先発医薬品（長期収載品）の選定療養の御社のジェネリック医薬品に対するプラス効果も教えてください。</p>	<p>主な対象品目として、子宮内膜症治療薬のジエノゲストがございしますが、先発品の処方量も極めて少ない状況でございますので、プラス効果としては限定的と考えております。</p>

	質問	回答
9	<p>25.9期計画において25年4月の薬価改定の影響をどのように想定しているでしょうか。そのなかで不採算品再算定に関してはどのように取り組むご計画でしょうか。</p>	<p>2025年4月は中間年改定ということで、これまでの中間年改定の結果を見ながら、薬価改定の影響を予算に組み込んでおります。</p> <p>一方で、不採算品再算定につきましては、今回実施されるのかどうか、その範囲がどこまで及ぶのか、明確でない部分がございますので、現段階では予算に組み込んでおりません。</p>
10	<p>新ホルモン製剤棟の稼働に関して、24年内の稼働予定であったと思いますが、アップデートはありますか。</p>	<p>2024年内の稼働が難しくなっている状況です。製品の品質の確認を終え、2025年中の稼働に向けて改めて準備を進めている状況です。</p> <p>一方で、生産体制につきましては、既存製剤棟での増産体制、そして品質試験の実行体制を整え、市場の需要に対しては既存製剤棟で対応していくことを予定しております。</p>

予想および見通しに関するご注意事項

本資料に記載の業績予想及び将来の予想等に関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき弊社にて判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。また、本資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

連絡先

富士製薬工業株式会社 経営戦略本部 経営企画部 コーポレートコミュニケーション課

E - M a i l : fsk_ir@fujipharma.jp

U R L : <https://www.fujipharma.jp/>